**スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年記念祝賀会を韓国ソウルで開催**

2013年10月20日（日）、淑明女子大学校（Sookmyung Women’s University）のSamsung Convention Hallで、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年を祝して「Vivek 150 Anniversary Festival」が開催されました。このイベントは、ソウルのインディアン・カルチャー・センター（Indian Culture Center, Seoul）と在韓国インド商工会議所（Indian chamber of commerce in Korea）の協力の下、設立されて間もないヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・コリア（Vedanta Society of Korea、以下「韓国センター」）が主催し、日本ヴェーダーンタ協会も大きく協力しました。

スワーミージの生涯と教えについてこれ程大規模なイベントが開催されたのは韓国の歴史上初めてで、イベントの目的は、スワーミージと、真の自己への気付きや愛の全能の力、神の悟りなどに関するスワーミージの教えに対して敬意を表すことでした。主賓は、在韓国インド大使Vishnu Prakash閣下と、日本ヴェーダーンタ協会プレジデントで韓国センターの霊的アドバイザーであるスワーミー・メーダサーナンダでした。

祝賀会の企画・開催に当たっては、在韓国インド商工会議所General SecretaryのKook Hyun Chang氏、西江大学（Sogang University）教授Chae Yong Kim博士、ヨガ・インストラクターのJeena Lee氏とEnju Kim氏、東ソウル大学（Dong Seoul University）教授Abhjit Gosh博士を始め、様々な韓国人グループやインド人グループの皆様から多大なご協力をいただき、当日は300名を超す方々が来場されました。

祝賀会では初めに、平和のマントラを唱えながら、スワーミージの写真を載せた祭壇脇にあるランプに火を灯し、祭壇に花を奉献しました。続いて、スワーミージの生涯についてのビデオを上映しました。会場は霊的な雰囲気でいっぱいになりました。

次に、在韓国インド商工会議所General SecretaryのKook Hyun Chang氏が、学者、学生、ビジネスマン、インド人や韓国人の各種団体の代表者など様々な来場者に向かって、歓迎の挨拶を述べられました。同氏は、スワーミージについて知ったのはごく最近であるが、この祝賀会に深く関わるようになったこと、人生に対するスワーミージの哲学や教え、思想などを知り、韓国センターにもっと関わってスワーミージの教えを韓国に普及させる手伝いをしたいと思うようになったことなどを話されました。

インド大使Vishnu Prakash閣下は、スワーミージがこの世に滞在した期間は短かったが、そのメッセージは普遍的で永遠に響くものだと仰いました。スワーミージは、すべての宗教は平等で、すべての人の中に神（アートマン）が現れているのを理解し、ヨーガや瞑想、禁欲を重視する一方、貧困や偏見、差別という悪の元凶に強く反対し、女性の地位向上、教育の普及を唱えたとお話しになりました。

日本ヴェーダーンタ協会のプレジデント、スワーミー・メーダサーナンダは、人生の目的は、神の礼拝を人類への奉仕という形で行うことであると述べました。西江大学教授Chae Yong Kim博士は、スワーミージが古代の叡智を誰にでも分かるシンプルな方法で提示し素晴らしい結果を産んだと仰いました。

また、「ヴィヴェーカーナンダ・ヨーガ・オリンピック（Vivekananda Yoga Olympiad）」と「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯と功績に関するスピーチ・コンテストと展示（Speech Contest and Exhibition on Life and Work of Swami Vivekananda）」も行われました。

ヨーガ・オリンピックは、韓国内にあって霊的貢献の精神を持つ様々なヨーガ・センターの競技会でした。一方、スピーチ・コンテストの目的は、1893年9月にシカゴで開催された世界初の万国宗教会議でスワーミージが行った素晴らしいスピーチを多くの人々に知ってもらうことでした。

スワーミージの生涯と業績に関する展示は注目を集め多数の人々が見学に訪れました。展示内容は、幼少時代の神への好奇心とシュリー・ラーマクリシュナとの出会いについてでした。また、このイベントでは舞踊、音楽、ヨーガ、観光、インド料理などインド文化の様々な面に触れる機会もあり、韓国舞踊やインドの伝統舞踊、バングラデシュ、アフリカ、韓国のアーティストらによる演奏も披露されました。